

新日鉄住金を中心とした鉄鋼業関係者が会員に名を連ねる「機動隊員等を励ます会」

が1974年の発足から今年で40周年を迎えた。第五代理事長を務める羽矢惇新日鉄住金エンジニアリング前社長は「会員の純粋な善意により発足し運営が40年も続いたことは素晴らしい。地味な組織だがより多くの人に理解してもらい継続することが大事」と話す。

本会は74年の浅間山荘事件などで多くの機動隊員が身を賭して警備活動を行い、中には文字通り生命を失った人もいた姿に感動した人々によ



羽矢理事長

「機動隊員等を励ます会」 発足から40年

羽矢理事長「善意の組織、継続が大事」

って発足。旧新日本製鉄と取物心両面で支援。東京本部と引先を中心とする法人や個人全国8支部で年1回交流激励が会員となっている。初代理事を開催しているほか、警察局長は大内俊司元新日鉄副社長が務め、二代目に鈴木實五、十鈴グループ会長、三代目に佐々木喜朗元新日鉄副社長、4代目に小山巖元新日鉄副社長が就任した。

「最近では新日鉄住金の発足で特に旧住友金属工業系の法人や個人会員が増加した」と羽矢理事長。「応援する意義を理解している会員をなるべく多く確保することが重要だ」と強調する。創立以来応援している会員も多く、40周年の節目の今年はこうした会員や特別な功労のあった法人や個人へ感謝状を贈呈し謝意を表している。

会では機動隊員を中心とした警察官などへの警備活動をしてきた。東日本大震災の際には、民間の大変な活躍をしたが、警察協力者なども含め殉職者も多かった。当会の存在意義でもある「応援する気持ち」が少しでも広まってほしいと思う。

た警察官などへの警備活動を